

エコライフ DAY とだ 2011 報告書

～地球温暖化防止のために生活を見直すエコライフ DAY とだ活動報告～

第 12 回 2011 年 6 月 12 日(日)実施報告

温暖化防止活動

前回より参加者は522人増加！ エコライフDAYの6月結果

小学生・保護者総数 16,843 人 (14,475,947 g)
中学生・保護者総数人 4,088 人 (4,087,362 g)
そして、戸田翔陽高校と南稜高校の皆さん (1,339 人)
と先生方 (314 人)、一般市民の皆さん (3,246 人)
を加えて、合計 25,782 人 (22,640,768 g) に、
エコドライブ参加者 5,358 人 (20,242,524 g)
を加えると



キャラク
ターのト
エルです。

総合計 **31,140 人** 参加で、削減した
二酸化炭素の量は **42,883,292 g**。つまり、
皆さんが 1 日で削減した温室効果ガスの CO₂ (二酸化炭素
量) は約 43 トンでした。今年は 3 月 11 日の大震災の影響
や夏の電力事情への「節電」が大きなテーマにもなり、エコ
ライフも初めて 6 月 12 日の 1 日だけでなく、そこをスター
トに 8 月末までの節電期間を継続。戸田市民の生活から国の
目標である 15% 電力削減にがんばりました。

第 12 回エコライフDAYの感想



エコライフDAYとだ実行委員会 委員長 川谷 勝晟

第 12 回エコライフDAYが皆様のご協力で大変良い成績を残す事が出来、深く感謝申し上げます。本年は 3 月 11 日に、東日本大震災が発生し、福島第 1 原子力発電所が未曾有の大災害を受け、電力事情が極端に落ち、家庭での節電 15%以上が必要になりました。市内のスーパーの電燈が半分となり、薄暗い中でのショッピングを目のあたりにして改めて節電の実態が市民の目に映りました。その他企業も休日の変更、鉄道各社も間引き運転と、近年電力の使い放題が一気に変わって世の中その気になれば節電イコール地球温暖化防止になると考えられ、良い機会と捉えたいと思いました。家庭でも関心が高く、前年比大幅に低下した家庭が多かったようです。本年は埼玉県でダイエットコンクールを実施され、戸田市も参加しました。今年の冬来年の夏も電力事情が不安定との報道がありました、来年も引き続き節電キャンペーン行いますのでご協力お願いします。又本年は節電キャンペーンを盛り上げるために、環境うちわを戸田社会福祉協議会の助成で 18000 本製作して、幼稚園、保育園、小中学校に 15000 本、その他一般に 3000 本配布して、戸田市民に理解を深めることが出来ました。

本年も気候変動により世界各地に干ばつ、洪水、水害の為に穀物の高騰、中東各地の政変で石油製品の高騰でインフレが世界を不安定にしています。これらは地球温暖化がもたらす悪影響と思われる。この問題は国境がありません。一人一人が将来のある子供たちの為に、ライフスタイルを見直して良い環境をつくりを真剣に取り組みたいと思います。今後ともご協力宜しく願いたします。

埼玉県では「地球温暖化防止活動推進員」を募集しています！

地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策推進法に基づき、地域における地球温暖化の現状及び地球温暖化対策に関する知識の普及並びに地球温暖化対策の推進を図るための活動の推進に熱意と識見を有する方々で、知事の委嘱により活動するボランティアです。

地球温暖化防止活動推進員は、次の活動を行っています。

地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性について住民の理解を深めること。

住民に対し、その求めに応じ日常生活に関する温室効果ガスの排出の抑制等のための措置について調査を行い、当該調査に基づく指導及び助言をすること。

地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う住民に対し、当該活動に関する情報の提供その他の協力をすること。

温室効果ガスの排出の抑制等のために国又は地方公共団体が行う施策に必要な協力をすること。

「エコライフ DAY とだ」について

戸田市長 神保 国 男



「エコライフDAYとだ」につきましては、多くの方々のご参加の下、盛況に開催されましたことに対し、心よりお喜び申し上げます。

この夏、国では、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法が成立し、来年度から再生可能エネルギーの全量買い取り制度が開始されることとなりました。こうした再生可能エネルギーの導入促進により、地球温暖化対策が加速化していくものと期待しております。

また、戸田市におきましては、平成23年3月に「戸田市地球温暖化対策実行計画」を策定いたしました。この計画は、市域全体の地球温暖化対策に向けた具体的施策、温室効果ガス排出量削減の数値目標を定めたもので、「環境みらい都市」として、今まで以上に市民、企業の皆様とともに地球温暖化対策に取り組んでまいります。

エコライフDAYは、だれもが気軽に参加でき、この活動を通して、多くの方々の地球環境保全に対する意識が高まり、個人レベルで一つ一つの取り組みを実践していくことで温室効果ガスの削減に大きく寄与するものと期待しています。

このような取り組みの拡大は不可欠であると深く認識し、皆様の活動に対しましてご支援してまいりたいと考えておりますので、今後も引き続き地球温暖化対策にご尽力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。





この「節電」を機会に生活を見直し、 エネルギーから子どもたちに未来を

エコライフDAYとだ実行委員

中島 浩一（国会議員政策秘書）

今年も多くの小中学生を中心とした戸田市民、戸田企業市民、戸田市に縁のある方々に「エコライフ DAY とだ」にご協力いただきありがとうございました。実行委員の一人として心からお礼申し上げます。私自身は11月北戸田で行われた6月12日「エコライフ DAY とだ」のイベントで司会を務めさせていただく以外に大きな協力ができず申し訳ありませんでした。

さて、今年は東北大地震が発生し、エネルギーについて日本国民のみならず世界全体地球規模で考えさせられました。大震災も津波も地球が温暖化しておかしくなっていることも影響しているのではないかと考えるのは考えすぎでしょうか？津波による被害で福島原発が破損し、日本のエネルギー政策は見直しされることとなりました。原子力発電は、廃炉や安全リスクを含めれば安価ではありません。再生可能エネルギーや新エネルギーについては、将来の可能性を否定できませんが、FIT(余剰電力買い取り制度)が最終的に国民に負担をお願いする部分を含めたコストとそれが企業活動の競争力を低減させる側面、信頼性および来年の電力危機に対応できる能力等を考えると、現時点では全面的に依存できるものではありません。将来的には原子力発電がなくなり、蓄電を含めた技術革新によりスマートグリッドコミュニティネットワークが普及すると、自然エネルギーを中心に身近な地域の系統で電力を賄えるようになるでしょうが、まだまだ先の話です。

今年の夏は、企業や家庭の節電努力もあり乗り切ることができましたが、このまま定期点検を契機に原子炉が停止していくと来夏の電力は確実に不足します。家庭においても企業においても、改めて日常生活における電気、エネルギーの大切さを実感し、省エネ世界一の技術を持つ日本の省エネルギー、エコファーム、LED等も積極的に活用し、地球温暖化に対する取組みを強化しなければなりません。将来の子どもたちに地球を繋いでいくために、現役世代が中心となって一緒に太陽に照らされて青く輝く地球を守りましょう！一日の活動を常態化し、全市民全国民全人類に普及啓発できるよう、今後とも「エコライフ DAY とだ」の活動にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



東日本大震災とエコライフ



実行委員会・事務局長

山中邦久



今年のエコライフ DAY は例年と大きく異なった特別の活動になったといえるのではないのでしょうか。それは 3 月 11 日の「東日本大震災」が起こったことです。エコライフ実行委員会のメンバーでも、中島さんの事務所にいち早く「市民災害支援対策本部」を設置、物資や募金活動を行い、「てんぷら油の廃油」から自動車燃料にする研究会では、戸田市のごみ

分別施設、旧フラワーセンターにおいてあった、ブラジル産のバイオマスエネルギー（ドラム缶 10 本分）をフォークリフトが使えないということで呼びかけると 10 人近いとび職の若者がボランティアで駆けつけてくれて、トラックに積み込み東北へ届けることが出来、ガソリン燃料不足のあの時期、とても助かったと現地から深く感謝されました。



また、ブログにもありますように、4 月には友好姉妹都市でもある福島県白河市にエコライフ DAY 活動で集めた義援金を渡し、感謝状をいただけてきました。

6 月 12 日のジャスコ北戸田店でのイベント会場でも写真のように子どもたちが「エコライフ参加」を呼びかけると共に被災地支援の募金活動も行いました。

私は早くからボランティア



団体として現地入りもし、毎月 11 日には被災地に行っています。発災時（震災直後）は命が第一です。自衛隊、米国、海外からの救助隊、救助犬や救命救助、緊急支援が最優先でした。そして「復旧」

はライフラインを中心に食事や睡眠、お風呂、休養など「体力や生活」中心でした。あの寒さは厳しかったと思います。その寒さの中、わずかに電気がついている自動販売機の前で受験勉強をする子供たちを見て、韓国が格安で提供してくれる写真のソーラー発電の勉強スタンドを各関係部署に交渉にも行きました。



現地では究極のエコライフ生活でしのいでいました。それから半年が過ぎ、これからが未来へ向けての「復興期」になります。都会の無尽蔵に使える電力を支えているのはほとんどが地方の田舎です。福島原発事故では帰宅できるのに 10 年以上かかるかも知れないリスクを負っています。

戸田市では市役所が白河市に支援物資を届けたり、市職員がボランティア参加を勧めたり、建設教会の方々が日本財団の依頼で重機を提供したり、あるいは市民活動としても、バイオ燃料のワゴン車を 2 台、石巻市の NPO や宮城復興センターへ寄贈しました。それらの自動車のおかげで、行政の手が回らない牡鹿半島の 2 千人の分散した被災者に毎日支援物資が届けられているとお礼がきました。実は「復興期」は一度心が落ち着き、明日のビジョンが、希望が必要な時期であると同時に、今までは同じ「被災者」であったものが、バラバラの個人や市民に戻る時期でもあります。「復興期」



「復興期」は仮設住宅に移り始め 60 人いた避難所に 8 人しか残っていない場合や、仮設住宅で知り合いがバラバラになったり、身寄りを頼り町を出るもの、お店や会社を再開できるものなどそれぞれの事情や実情で格差が出始めるときでもあり、「個人の事情」優先で取り残される孤独感が増す時期なのです。大きな体育館で同じ「避難民」だったが、それぞれの「個人」、仮設や個人宅など眼に見えない場所に拡散してしまう都会生活と同じになります。だから「孤独死」などはこの時期から生まれるともいわれます。例えば現代だと、貧乏や他の人と少し違ったり仲間はずれにされると、その格差は精神的に耐えがたくなりイジメや自殺の精神的な病にもなりかねないようなものなのです。だから復興期の支援は、寄り添える個人のパワー、一人ひとりの

心のやさしさが必要で、それこそ市民ボランティアのきめ細かな対応や応援などが大切になるのです。まさに、都会に住む市民の力を求める時期なのです。

今年のエコライフ DAY は「プラグを抜く」(UNPLUGGING) という 30 年近い前の標語を思い出させてくれました。いつの間にか日本は原発大国になって、電気の無駄遣い。エネルギーの無駄遣いを、エコライフなど反省しない生活を謳歌してしまいましたが、この夏、アフリカのソマリアでは 40 万人以上の子どもたちが餓死するともいわれています。こうした砂漠化や食料や水不足、ゲリラ豪雨も台風や日本の熱帯化も地球温暖化が原因かも知れないといわれています。私たちが日常的に受けている生活の恩恵は、実はこうした犠牲や危機によって得られているのかも知れないのです。今回の活動はそうした地球規模での問題意識を改めて身近に教えてくれたのではないのでしょうか。被災地を含めてもう一度初心に帰って、自分たちの生活の見直しになる契機になればと思います。この報告書は薄いかもしれませんが、しかし、実に重い問題を提起しているのです。それは「考えること」です。どんな優秀な政治家や官僚でも、答えがひとつではない難問です。みなさん、今回はじっくり考えましょう。この報告書を前に、みんな考え、話し合えば、それが一番今回のうれしい成果だと思います。(了)

第 12 回 エコライフ参加者別集計

学校名	低学年	高学年	本人合計	家族 参加者	合計 本人+家族	エコドライブ
戸田1小	377	385	762	1,202	1,964	329
戸田2小	421	500	921	1,583	2,504	405
美谷本小	151	143	294	453	747	140
戸田東小	227	254	481	881	1,362	196
戸田南小	281	333	614	987	1,601	216
喜沢小	191	198	379	582	961	120
新曽北小	319	343	662	582	1,244	202
美女木小	219	225	444	781	1,225	218
笹目東小	490	382	772	1,241	2,013	421
笹目小	126	136	262	459	721	152
新曽小	269	240	509	834	1,343	220
芦原小	237	201	438	720	1,158	178
計	3,308	3,340	6,538	10,305	16,843	2,797
一人当たりCO2削減量	459	896		967		3,778
削減量合計	1,518,372	2,992,640	4,511,012	9,964,935	14,475,947	10,567,066
戸田中			521	249	770	77
戸田東中			308	384	692	89
美笹中			282	42	324	0
新曽中			466	624	1,090	189
笹目中			284	226	510	106
喜沢中			337	380	717	99
計			2,183	1,905	4,088	560
一人当たりCO2削減量			984	1,018		3,778
削減量合計			2,148,072	1,939,290	4,087,362	2,115,680
小中合計			8,721	12,210	20,931	3,357
翔陽高校			329	47	376	10
南稜高校			962	1	963	1
計			1,291	48	1,339	11
一人当たりCO2削減量			819	900		3,778
削減量合計			1,057,329	43,200	1,100,529	41,558
先生・事務員			266	48	314	115
一人当たりCO2削減量			1,185	1,185		3,778

削減量合計			315,210		315,210	434,470
学校計			10,278	12,258	22,536	3,483
市職員			828	98	926	552
一般・その他			2,170	150	2,320	1,323
計			2,998	248	3,246	1,875
一人当たりCO2削減量			820	820		3,778
削減量合計			2,458,360	203,360	2,661,720	7,083,750
参加人数総合計			13,276	12,506	25,782	5,358
削減量総合計					22,640,768	20,242,524

エコライフ DAY とだ 2011 実行委員会事務局

〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田1丁目18番1号

TEL:048-441-4444 FAX:048-441-4451

戸田市ボランティア・市民活動支援センターTOMATO

後援：戸田市・戸田市教育委員会

協賛・協力：財団法人サイサン環境保全基金・東京ガス(株)埼玉支店・東京電力(株)とだわらび青年会議所・地域通貨戸田オール運営委員会・(株)セルフネット・キザワ印刷・NPO 法人戸田の川を考える会・ボランティアセミナリィ OB 会・戸田市社会福祉協議会・蕨戸田衛生センター組合・戸田競艇組合・戸田文化体育振興事業団・戸田中央総合病院・イオン北戸田店・明治乳業(株)関東工場・イトーヨーカドー錦町店・スーパーバリュー(株)福祉の杜・笹目地区環境対策協議会・戸田市SOHOデジタル事業協同組合・戸田地球温暖化防止グループ・TODAジュニアサポートネットワーク・NPO 法人川口市環境会議・NPO 法人環境ネットワーク埼玉・埼玉県環境部地球温暖化対策課・戸田市ボランティア市民活動支援センターTOMATO・その他の参加各企業、団体の皆さん、そして、市内各小中学校の先生方 参加の皆様にも感謝！（順不同）

<http://www.ecolifeday-toda.info/>

【編集後記】（写真は市民シンポで挨拶する清水委員長）

この報告書が完成する日、震災から半年目に福祉保健センターで震災を検証する市民シンポジウムが開催された。会場は90人以上の参加者で関心の高さが示されたが、原発問題という複雑な課題は今回は触れられなかった。節電をテーマに都会でのエコライフを考えるにはこの「原発」問題は避けられないかも知れない。

エコライフ DAY 実行委員会も大きな曲がり角に来ているのを実感する。「ライフ」は「生活」という意味だけでなく「命」でもある。帰宅難民の両親が迎えにくるまで子どもたちは地域で守られるのか。電気も水道も、ガソリンスタンドも使えなくなるとしたら・・・「想定すべき」危機はそこにある。

